

Q8：より充実した地域連携を進めるためのポイントを教えてほしい。

A：平成26年度から地域連携教員が指名され、校務分掌にも位置付けられたが、これは学校が新たな取組をするものではなく、今まで行われてきた地域と連携した取組を一層進めるためのものである。今までも多くの学校では、授業や学校行事で地域の方々の協力を得る際に、個々の担当者が連絡調整を行ってきたと思われるが、地域連携教員を位置付けることで、学校の窓口を明確にし、地域との連携をより円滑に行おうとするものである。その際の参考資料として、今年度県教育委員会から「学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック [平成27年度版]」（以下「ガイドブック」）が発行され、各学校にも配布されている。電子データも送られているので、地域連携教員はもちろんのこと、多くの教職員の活用が望まれる。

◇ 学校の実情を把握

地域との連携を進めていく上でまず必要となることは、現在までの地域連携の取組状況や地域の教育資源・人材について、現状を把握することである。

【ガイドブック】

参考資料⑤「地域連携の4つの視点を活用した活動内容について」 p. 21

参考資料⑥「学校と地域の状況について」 p. 21

参考資料⑦「チェックシートを活用した地域連携の取組状況について」 p. 22

◇ 推進計画の作成

全教職員が共通理解を図り学校全体で地域連携を進めていくためには、推進計画を作成し、推進目標や努力点及び具体策などを明確にしておくことが大切となる。作成にあたっては、生涯学習との関連から、既存の生涯学習全体計画の中に地域連携を位置付けて修正する方法や、新たに地域連携推進計画を作成する方法がある。

【ガイドブック】

*生涯学習全体計画とは別に地域連携推進計画を作成する場合

参考資料⑧の1・参考資料⑧の2「地域連携推進計画」 p. 23・24

*生涯学習全体計画に地域連携を位置付けて作成する場合

参考資料⑧の3「生涯学習全体計画へ位置付けた計画」 p. 25

◇ 年間活動計画の作成

地域連携を進めていくためには、推進計画の下に、いつ頃どのような内容の連携を行うのかを具体的に示した年間指導計画が必要です。

作成の際に注意することは、地域連携が、活動のねらい達成のために本当に必要なのか、どのような連携が効果的なのかを十分検討することである。地域連携は、ねらいを達成するための手段の一つであることを理解しておかなければならない。

【ガイドブック】

参考資料⑨「年間活動計画」 p. 26 参考資料⑩「校内のニーズ調査」 p. 27

◇ 実施記録の蓄積

実際に活動した後、記録を残しておくことが重要である。活動に協力してくれた方々の名前や連絡先、おおよその内容と感想など、次の活動に役立つものとなる。地域の方も慣れてくると、活動について改善点など提案してくれることもある。これらの積み重ねが、より充実した地域連携へと繋がっていく。

【ガイドブック】

参考資料⑫「事前打合せ用紙」 p. 29

なお、地域との連携を図っていく上で、地域教育コーディネーターの存在が重要となる。実際にコーディネーターがいるところでは、地域との連携が円滑に図れているのが現状である。

総合教育センターでは、「地域教育コーディネーター養成セミナー・生涯学習ボランティア研修」を、芳賀教育事務所では「ボランティアコーディネーター養成研修会」を実施している。教職員はもちろんのこと、地域においてボランティアのまとめ役をしてくださる方に、これら研修会への参加を呼びかけていただきたい。